



令和8年度 八戸東高等学校演劇部

自主公演

The Musical なんとしても、あの土俵を取り返すのよ!
バックステージ

作 八戸東高校演劇部 音楽 嵯峨昭彦

同時上演
過去の名シーンを一挙公開!
NO MUSICAL
NO LIFE!
2026

令和8年4月26日(日)
午後3時開演(開場は30分前)
SG GROUP ホールはちのへ (八戸市公民館)

原簿: 風巻1連勝出土 国宝「香土土俵」八戸市埋蔵文化財センター-長川縄文館 展

TOPIC

令和8年度 八戸東高校演劇部自主公演

The Musical 「BACKSTAGE」

バックステージ

作/八戸東高校演劇部 音楽/嵯峨昭彦

同時上演

「NO MUSICAL NO LIFE! 2026」

過去の名シーンを一挙公開!

<theater information>



「砂の女」青森公演

原作:安部公房
脚本・演出:山西竜矢
出演:森田剛・藤間爽子・大石将弘
東野良平・永島敬三・福田転

【日時】2026.4.11(土)
開場14:30/開演15:00
【会場】SG GROUP ホールはちのへ
(八戸市公会堂)
【料金】S席11,000円
A席7,700円(全席指定・税込)
【問合】ニイタカプラス
☎022-380-8251
(平日11:00~15:00)

安部公房の長編「砂の女」を森田剛主演で舞台化。

2026年4月26日(日) 15:00開演
(開場は30分前)

会場/SG GROUP ホールはちのへ
(八戸市公民館)



問/青森県立八戸東高等学校 ☎0178-43-0262 <https://www.hachinohehigashi-h.asn.ed.jp>



人形劇団 京芸

「とどろけ洲のメッケ」

【日時】2026.4.19(日)
開場13:30/開演14:00
【会場】SG GROUP ホールはちのへ
(八戸市公民館ホール)

【対象】3歳以上親子
※兄弟・姉妹の場合は、乳幼児も入場可
※1歳半までのお子様はおひざだっこ1席
でお願い致します
【定員】先着500席(全席自由席)
【参加費】小学生以下無料
中学生以上 ひとり500円

【入場料支払い】
入場有料分お支払いは、4月18日(土)
16:00までにこどもはっちでお支払い
ください。当日までこどもはっちにお支
払いに来られない場合、当日のお支払
いも可能です。
※支払いの際、チケットお渡しいたします。
※有料入場に関してのキャンセルは不可。
当日急遽来られなくなった場合、入場
料は後日お支払いいただきます。
※フォーム申し込み後のキャンセル等
はお受けできませんのであらかじめご
了承ください。

https://kodomohacchi.site/xo_eve nt/todorogahutino-mekke202604/
より申込可
【問合】こどもはっち ☎0178-22-5822
<https://kodomohacchi.site>
人形劇団京芸創立70周年記念企画第
2弾、ミステリーでスペクタクルな冒険
活劇をお届けします!

<スペースベン4月の予定>

FANS 予定 第1678~1681回

毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円/大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)

「だべり場」「かたり場」「ほだれ場」随時開催しています

<Dance Lesson>

- 毎週月曜日 18:00~19:00/HARU House dance Beginner
- 毎週火曜日 20:15-21:45/KAZU HIPHOP DANCE SCHOOL
- 最終水曜日 19:30-20:30/SEGA HIPHOP

<古典戯曲を味わう会>

国内外の古典戯曲から参加者で選んだ作品を読み、楽しむ企画です。

- お問い合わせください(通常毎月第1・3水曜日開催)
- ※太宰治「新ハムレット」他を予定
- ※参加費¥100。Zoomにて開催中。日時等変更になる場合があります。

<メンバーズカード>

チャージ可能なプリペイドカードで、入場の際ご提示いただく前売料金で入場いただけます。また、どの公演でも入場料から3%値引きいたします。チャージは現金でもクレジットカードでも可能です。



<キャッシュレス決済>

「PayPay」「ID」他、カード払いに対応しています。

- 各詳細は080(6025)0990に
お電話でご確認ください

<Free Column>

劇場の 片隅から

文/まれ ゆう
~日記から~

最近なんか疲れることが多いなあ。年度末だからかしら…。よかれと思っている話してもなかなか話が噛み合わない…。たぶんあたしの言い方がよくないんだろうな、とは思いつつ、安全なところに身を置いて知らんぷりもできないこの性格(笑)みんなでよいものにしようと思ってもウザがられることも多いかな(笑)まあそれでも明日はやってくる。新しい年度も始まっちゃう。桜ももうすぐ咲く。今年も桜を見られるだけでもよしとしよう。さあ、気持ちを新たに頑張りますよ(笑)

特別寄稿

小さな青い空に、風船は飛んでいった

八戸ポータルミュージアム はっち 15周年記念市民劇『A LIVE』

文／五十嵐隆

2011年2月11日に開館した八戸ポータルミュージアムはっち、15周年記念演劇『A LIVE』(作・演出 越智良江)。上演空間となったのは建物全フロアの中心部に設けられた吹き抜けの中庭、「はっちコート」。その1階と2階のに360度を観客席で囲んだ上演空間が設けられました。キャストは公募で集まった11人の高校生と中学生たち。ちょうど『はっち』が開館した頃に生まれた15歳前後の世代です。

作・演出の越智さんの作劇メソッドはおそらく、2010年に戯曲『わが星』で岸田戯曲賞を受賞した劇作家・柴幸男さんの影響を濃厚に受けていると思われます。柴さんはいわゆる起承転結では物語を紡ぎません。その手法は日常会話の断片を反復(ループ)させたりラップ調の台詞で物語を紡ぐなど独特のもの。描こうとする世界を普遍的な構造として観客に示す手法は「音楽的」とも「数学的」とも評されています。

2420、2715…数字を言いながら俳優たちが登場してきます。この数字はそれぞれの出演者が生まれたときの体重です。でも今回の越智さんの作る演劇も、物語はいわゆる起承転結のドラマツルギーでは進行しません。「役」と「俳優」は必ずしも1対1対応せず、11人のキャストが次々に入れ替わりながら3名の登場人物を演じていく。そしてそれぞれの役柄も場面も次々に転位していきます。一元的ストーリー構造で物語を解釈する感覚に慣れている観客には、最初はちょっと困惑する展開かもしれません。

越智さんも、劇世界を「流れをもった構造」として描きます。記号的かつ音楽的に配置された各チャプターのエピソードが人生のさまざまなシーンの断片として観客に提示され、いつしか観客はそれらの因果律よりも「事象の配列そのもの」に人生という大きな流れを感じていく。そこに、この瞬間瞬間を生きるキャストたちの生(LIFE)が重なる。そのポリフォニーが、この『A LIVE』という作品に爽やかな感動を生みだしています。

360度囲まれた閉塞した世界。はるか真上に小さく見える青空。ラストシーン、その青空に飛んで消えてゆく小さな風船。それはそのままこの街で生き、そして飛びたっていくのだろう11人の若者たちの未来と重なって見えました。「物語」とは、突き詰めて言えば「ここではない何処かへ出て行こうとする者を描くこと」なのだと思わされます。今回、集まったキャストの多くは演劇経験の無いメンバーですが、逆に変な癖のついていない演技がテキストの世界観と相まって、透明感のある劇世界を現出させていました。

一方、少しだけ気になったこともあります。それは今回の「15周年記念市民劇」の《場》が、八戸という地域性も、そして15年という歴史性も、どちらも非常に希薄だったという点です。もがきながら、あがきながらこの15年間『はっち』で演劇を作ってきた八戸市民の息遣いや

気配。それを、この公演で私はほとんど感じることがなかった。何故でしょう？

端的に言えばその理由は、作り手にも観客席にも『はっち』で演劇を作ってきた八戸市民たちの姿をほとんど目にするのがなかったからです(少しはいらしたのかもしれませんが)。

15周年記念市民劇に八戸という地域性や15年の歴史を感じたい。それは勿論、私が勝手に「そのような《場》を感じたい」と言っているにすぎません。でも、もしもこの15年の八戸市民の息遣いをそこに感じることが出来たなら、この公演はより素敵な空間になっていたと思うのです。それがとても勿体なかった。良い劇場とは地域の市民が勝手に「想いを託す《場》」なのですから。

イベントとして質の高い舞台上演が成立するのは素晴らしいことです。でもそれは地域の劇場と市民との豊かな関係性のなかで街に演劇文化が根付き、演劇人が育っていく事とはまた別のハナシです。それだけに今回の演劇作りに参加した11人の若者たちの中から、いつかこの街の演劇作りに関わっていく人材が育っていくことを願ってやみません。天高く飛んでいく風船が一つではないことを信じて。



■はっちの15周年 市民演劇プロジェクト みんなでつくる演劇「ア・ライブ」音楽と演劇で綴る15歳のLIFE 2026.2.7(土)・8(日) 八戸ポータルミュージアム はっち1階中庭

●筆者近況

ご縁があり、新潟市の「月潟稽古場」という演劇関係者が農家の倉庫を改装して作った劇場に行ってきました。手作りですが照明、音響設備は整い、なんとキャット・ウォークまで備わっていました。知恵と工夫、夢と情熱の詰まった素晴らしい劇場です。

FANSで上演・LIVEをやってみませんか？

ジャンルは問いませんので、まずはお気軽にご相談ください

space BEN Director 田中 勉 〒031-0081 八戸市柏崎1-11-8
mobile 080(6025)0990 Fax.050(3588)8350
e-mail owner@spaceben.com
https://spaceben.com/

crossingcafe fanscross crossingcafe crossingcafe YouTube @fanscafe



FANSってなんだ!?

小劇場「スペースベン」にて、毎週金曜日の夜7時30分から、約30分の芝居を楽しんでいただく企画です。芝居に限らずライブ・ダンス等、ジャンルの枠にとらわれず、金曜日の夜には“ここで何かおもしろい事をやっている”という場になればと思います。なお、料金は特別番組以外全て前売り500円、学生は200円です(当日100円増し)。上演の場を求めている方、刺激を求めているあなた、ご連絡お待ちしております。